

日本体育・スポーツ・健康学会 (JSPEHSS) 理事会通信 (2024 年 5 月 1 日号)

会員のみなさま

JSPEHSS 副会長の山口 香です。

長く続いたコロナ感染症が 5 類に分類されて約 1 年、街には人出が増え、対面の会議や会合も多くなり、以前の風景、日常が戻ってきたことを実感しています。会員の皆さまにおかれては、日頃からの学会への参画・ご尽力に深く感謝申し上げます。

4 月 13 日に第 7 回の理事会が開催されましたので、理事会通信をお届けします。

議事次第は以下の URL からご覧いただくことができます。

<https://taiiku-gakkai.or.jp/board-news-2>

今回の通信では、まず、2025・2026 年度代議員定数と女性枠について議論の内容を紹介させていただきます。

(1) 各地域代議員定数

『各地域代議員定数』は、過去 5 期分については、『補正後の代議員 1 人当りの会員数』が「会員数の格差が 2 倍を超えない」基準で補正ができていました。しかしながら今回は、四国地域の会員数の減少に伴い、四国の 2 倍の会員数「150.0」以内での調整が困難となりました。そこで、代議員選挙規程第 4 条 (2) の「原則として 2 倍を超えないように修正」と規定されている「原則として」に準じて、格差が最も最小に収まるかたちで調整をしました。さらに、代議員数合計 40 名とするために格差が最小に収まる、東京 (10 人→8 人) と大阪和歌山 (3 人→2 人) で調整しました。

(2) 代議代議員における女性枠

現在の代議員における女性枠の割り当ては、女性代議員がほとんど選出されない状況に対して、ポジティブアクションが用いられてきました。当初は、母集団における女性割合にあわせて女性枠を設けるという方法でした。この方法を採用して 10 年以上が経過しています。しかし、この方法では、母集団となる専門領域や地域における女性研究者の増加には好影響を与えることができていません。多様な声を代表者が反映できるようにするためには現状のやり方で良いのか。他の組織や団体のやり方や学会における母集団の推移などを調査し、新たなアクションの検討が必要な時期にきているのかもしれない。

学会員の地域差が広がっていることは気になります。また、多様性という観点からは女性のみならず、障がい者や LGBTQ なども含めての検討が求められてきているようにも感じま

す。代議員選挙の投票率の低さも問題です。会員一人ひとりが学会の運営・管理、改革等に
関心を持っていただくことは、学会の今後の発展には非常に重要であり、その1丁目1番地
が選挙への参加だと言えるような気がします。会員の皆さまには是非とも投票に参加いた
だけますようお願いいたします。

福岡大学で行われます第74回大会についての準備状況についても報告がありました。会場
内で参加者が無料でWi-Fiサービスが提供されます。希望者は、事前参加登録の画面上で
ネットワーク利用を選択して下さい。後日、登録したメールアドレスにWi-Fiネットワー
クのゲストアカウントが送られてきます。環境への配慮からスポンサーから提供される飲
み物をペットボトル以外で配布する方法も検討したが、現状ではそれ以外のベストな方法
が見つからず、今大会では従来通りの方法で実施されます。

理事会では、体育・スポーツ・健康学会が多様な人が参画し、ますますの発展を目指す観点
からの議論が活発に行われています。この観点からご意見やご提案があれば、ぜひ、事務局
までお寄せください。

以上